

よこかんみなみ

vol.53

あなたに、ベスト・ウェイ。



よこかんみなみ

検索

http://www.yokokan-minami.com 発行/東日本高速道路(株) 関東支社 横浜工事事務所



釜利谷ジャンクション工事では、「i-Construction」に取り組んでいます

よこかんみなみが横浜横須賀道路と接続する釜利谷ジャンクションでは、釜利谷ジャンクション工事を進めています。

この工事では、ICT(Information and communication Technology：情報通信技術)の全面的活用などにより、建設現場の生産性を向上させ、魅力ある建設

現場を目指す「i-Construction」に取り組んでいます。

例えば、試行的な取り組みとして、「LS測量」によって得られた地形データと設

計図面を合わせて3次元設計データを作成し、そのデータを活用して、「MGバックホウ」での切土の施工を行っています。

i-Construction(アイ・コンストラクション)とは 建設現場における生産性向上のための3つの施策	
1. ICTの全面的活用(ICT施工)	測量から検査まで一貫して3次元データを活用するなど
2. 全体最適の導入(コンクリート工の規格の標準化等)	コンクリート構造物部材の規格の標準化により工場での製作など
3. 施工時期の平準化	公共工事の施工時期の偏りをなくし、年間を通して平準化など



● LS測量

地上LS(Laser Scanner：レーザーキャナ)でレーザー光線を利用して計測する測量です。測定対象物にレーザー光線を照射し、反射して返ってくるまでの時間を距離に換算するとともに、レーザの照射角度から、対象物の3次元座標値を算出します。基準となる標定点を別の測量方法で定める必要がありますが、短時間で広範囲の測量ができます。



▲LSによる測量状況



▲釜利谷ジャンクションでのLS測量結果データ(360°計測)

● MGバックホウ

MG(Machine Guidance：マシンガイダンス)バックホウは、GNSS(Global Navigation Satellite System：全球測位衛星システム)で把握した機械の位置情報と3次元設計データを合わせて、運転案内モニターに表示することで、オペレータは土をどのくらい削れば良いかが分かり、バックホウから降りて斜面の勾配などを確認する必要がなくなり、作業効率が向上します。

▼運転案内モニター



▲MGバックホウの運転席



▲施工中のMGバックホウ

② 圏央道-横浜環状南線(よこかんみなみ)

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)の一部で、横浜環状道路の南側区間でもある横浜環状南線は、横浜横須賀道路の釜利谷ジャンクションと国道1号を結ぶ、延長約8.9kmの自動車専用道路です。全線の約7割がトンネルなどの地下構造となっています。



郵便はがき

241 8790

料受取人払郵便



この郵便物は平成31年3月31日まで有効期間とします。(切手不要)

神奈川県横浜市
旭区南本宿町21番地の1
東日本高速道路株式会社
関東支社 横浜工事事務所

「工務課」 行

住所 (〒 -)

氏名 ふりがな 電話番号 ()

職業 年齢 性別 歳 男・女

※このアンケートは、事業に関する認知度の把握や意見の収集、本紙記事の作成に利用することを目的とします。また、個人を特定しない方法でデータ集計し、公表する場合がありますので、予めご了承ください。
※住所・氏名などは差し支えない範囲でご記入ください。

